

審議会の議事の要旨(要点)

会議名称	第2回 昭島市男女共同参画プラン審議会
開催日時	令和2年8月4日(火)
開催場所	アキシマエンス 校舎棟 202 会議室
次第	1 開会の挨拶 2 議題 (1) 本市における男女共同参画の現状及び課題について 3 その他
配布資料	①資料1 第2章 本市における男女共同参画の現状【1統計からみる現状】 ②資料2 第2章 本市における男女共同参画の現状【2意識調査等からみる現状】 ③資料3 第2章 本市における男女共同参画の現状【3前計画の進捗状況】 ④資料4 統計・意識調査等からみる現状に係る課題 ⑤資料5 プラン策定に係る計画の趣旨の周知及び意見集約について ⑥【修正箇所あり】第1章 計画の策定の背景(案)
出席者	◆審議会委員 会長 金野美奈子、並木浩子、浦崎暁子、佐藤之崇、長瀬尚子、長谷川京子、大井晶子、長谷部高史、鳥生尚美 ◆昭島市 板野子ども家庭部長、萩原政策担当部長、渡辺女性活躍支援担当課長、青柳企画政策課長、吉野男女共同参画センター担当
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	1 開会の挨拶 会長 2 議題 (1) 本市における男女共同参画の現状及び課題について事務局より資料に基づいて説明。 委員からの質問・意見は下記のとおり。 ①統計からみる現状について ・4 ページ⑥世帯の家族類型別割合について、平成27年の女親と子どもの世帯の割合が8.4%とあり、この中の女親の

働き方のデータがあるのか。

→国勢調査結果数値のため内訳は不明

・6 ページ②男女別従業上の地位についての説明の中で「男性は正社員・正職員の割合が 63.5%と最も高いのに対し、女性はパート・アルバイトの割合が 46.9%と最も高く」と並べて記載されているが、女性もパート・アルバイトの割合ではなく正社員・正職員の割合を記載したほうが良いのではないか。

→修正を検討

・4 ページ⑥世帯の家族類型別割合の「女親と子どもからなる世帯の割合が微増」という説明と、6 ページ②男女別従業上の地位について「女性はパート・アルバイトの割合が 46.9%と最も高」という説明から、女親と子どもからなる低所得世帯が増加傾向にあると考えられ、経済的格差から子どもへの虐待や教育の格差につながることを懸念される。このようなことを記載したほうが良いのではないか。

・8 ページDV相談件数の推移のグラフについて、他の資料は～年の数値が記載されているが、このグラフだけ～年度という記載である。

→～年の一時点での数値と、4月から3月までの～年度間の集計した数値の違いである。

②意識調査等からみる現状について

・6 ページ「DVなどの暴力の防止および被害者の支援のために必要だと思う対策」について、被害側の女性への対策はいろいろ記載があるが、加害者対策については更正プログラムの普及のみである。加害側にDVをしているという自覚がない場合もあると思うので、更正プログラムを受けてもらうために強く働きかけるような取組も必要なのではないか。

→記載方法について検討

・4 ページ⑤合計特殊出生率について、この用語が一般的によく知られているのかどうか、自分はわからなくて調べたので、注釈があるとわかりやすい。

・1 ページ1 行目「令和元（2019）年に実施した「昭島市市民意識調査」によると、「全体」として 40.0%が「対等」とであると

回答していますが、～」と始まるが、この文章が説明しているグラフが次ページにあるため、アンケート結果の「対等である」という回答が何を示しているのか伝わりにくい。

- ・1 ページ文章中「全体」という文言が何か所かあり、アンケート結果のどの全体なのか分かりにくい。文言の調整が必要なのではないか。

- ・1 ページ3 段落目「最も「対等」の割合が高い分野は」に続けて3 点あげているが、「最も」で3 点挙げるのではなくて「対等の割合が高い分野は順に～」と上げていくのが良いのではないか。

- ・全体的に節の位置づけが一読して分かりにくい。この部分をもとに目標を設定しているということがより分かりやすくなるよう説明を加えると、グラフから何を読み取ってほしいか伝わりやすくなるように思う。

- ・2 ページ社会領域での男女の対等感についてのグラフの中で、家庭生活における対等という項目が、男女の意識の乖離が激しいというのが特徴としてあり、興味深く感じた。男性は対等と感じているけれど、女性は対等と感じていないという傾向が如実に表れている。こういった結果を目標設定などに生かしてほしい。

- ・2 ページ及び 10 ページのグラフについて、資料 3 の前計画の目標値の達成状況一覧にも関わることだが、家庭生活や職場等、様々な領域で男女が互いに「対等」と感じるのが理想だが、「女性が優遇されている」「男性が優遇されている」という感覚は相対的なものだと思っていて、現時点では「男性が優遇されている」分野があったとして、それが対等に近づいたとき男性側は「対等」と感じるより「女性が優遇されてきている」と感じる人が増えるのではないかと思っている。そうなると男性の「対等」と感じている人の割合は減るかもしれない。これを目標値に近づけるとするのは非常に難しいことだと個人的に感じている。

③前計画の進捗状況について

- ・2 ページ目標Ⅲの説明中「企業における働き方の見直しの観点より、多様な働き方を可能にする「在宅勤務」等の導入が進

む中、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大を契機に、感染予防策としてデジタル技術が普及し、テレワークの導入等、働き方の多様化が進んでいます」という文章について、確かにメディアではそのように取り上げられているが、一概には言えない。職場によっては機密書類の持ち出しが難しかったり、小売業などはまず除外されると思うので、すべてにおいて多様化が進んでいるというような表現ではないほうが無難ではないか。

・前の意見と同様、2 ページ目標Ⅲ「新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大を契機に」の文章で、確かにそのとおりだと思うが、感染拡大だけを理由にするより、「等」を入れるなどしたほうが良いのではないか。

→記載方法について検討

・1 ページ目標Ⅱについて、「配偶者等からの暴力の防止および被害者支援と男女の健康支援」とあるが、この「DV防止及び被害者支援」と「男女の健康支援」は目指すものも必要な対策も全く違うものだと思う。それが一つの目標の中に入っていることに違和感がある。

・3 ページの「全計画の目標数値の達成状況 (表)」について、「あらゆる暴力の防止」という施策の方向に対する目標指標が「DV防止法を知っている人の割合」となっていて、DV防止法を知っているということが、暴力の防止にどれだけ関連、していると評価をしていいのか疑問がある。DV防止法を知っているかどうかより、DV防止法の内容や具体的にDVとはどういうことなのか、理解がどれほど進んでいるかということを目指すべきではないか。

→資料 3 は 10 年前に策定された前計画の進捗状況、達成状況であり、今計画の目標指標については委員の意見を十分に踏まえ検討していく。

・2 ページ目標Ⅳについて、課題に「自治会加入率の低下、地域活動団体のリーダーの高齢化といった新たな課題が発生する中での女性リーダーの育成」とあるが、自治会加入率の低下も地域活動団体のリーダーの高齢化も以前からの問題で、それが発生する中での女性リーダーの育成となっていて、高齢者の代わりに女性のリーダーではないような気がする。二つは別の問題なのではないのか。

→記載方法について、仮に高齢化がなくても女性リーダーの

育成は課題であるというような表現を検討。

・1 ページ目標 I の説明文中「幼児教育・保育、学校教育の場における男女平等教育は一定程度達成されているものと考えられますが」という記述があり、学校の中では男女平等教育の達成目標があるわけではなくて、理解を深めて行動できるように教育が進められているので、「成果を上げている」というような表現の方がなじみが良い。

→修正を検討

・前計画の進捗状況というタイトルで、その計画についてここ以前に言及している個所があったか。この計画はいつからいつまでの計画なのかわからない。

④その他の質問・意見

・男女共同参画について、女性の地位の向上や経済的自立が確立しない限りは、家庭においても女性の負担が大きいというのは変わらないと思う。男性の家庭生活への参画が求められているので男性の意識改革、幼少期からの教育が必要でそういうところから意識が高まるのではないかと思う。

・一時期海外で生活していた際、女性の社会進出が盛んな国で、女性も働いて社会的にも成功を収めている方も多かったが、そうすると男性は家事・育児に積極的に参加しているかというところではなく、家事・育児はほぼアウトソーシング、もしくは祖父母に頼るという形だった。男女共同参画の観点から、男性も女性も仕事も家庭も両方ともやるとなると、負担だけが増してしまう。日本は家事・育児のアウトソーシングを受け入れられる社会なのかどうか、受け入れられる社会に変わるのかどうか、その点も課題だと思う。

・『男女共同参画に関する市民意識調査報告書』の 118 ページからの男女平等や男女共同参画に関する意見要望の回答の中で、アンケート結果の数値からはわからないような本音が記載されている。例えば「企業、少なくとも勤め先には、男性が長時間労働することを前提とした仕事が多く残っていると感じる一方、家庭では男女で家事を協力して当然という意識が高まっていると感じる。この二つから、板ばさみのようなやりづらさ、せちがらさを感じる。こういった状況を解消していきたい(男性・20代)」とか、柔軟な働き方を提供してほしい

と感じている女性、もっと育児に参加したいと感じている男性、それぞれに思うところがあるのだと思うので、市民一人一人の思いを汲んで推進プランを策定していただきたい。

3 その他

男女共同参画プラン策定市民説明会及びワークショップ開催について、及び、次回審議会の開催予定について事務局より説明あり。